

小規模事業者

経済動向調査報告書

<常陸大宮市>

2024年10月～12月期

常陸大宮市商工会

1. 目的

常陸大宮市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、商業（卸売業・小売業）及びサービス業の小規模事業者から計 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

3. 調査事業者

| 業種 売上規模 | 製造業 | 建設業 | 小売・卸売業 | サービス業 | 合計 |
|------------|-----|-----|--------|-------|------|
| ~1,000 万円 | 1 社 | 0 社 | 2 社 | 2 社 | 5 社 |
| ~3,000 万円 | 0 社 | 1 社 | 1 社 | 1 社 | 3 社 |
| ~1 億円 | 1 社 | 1 社 | 0 社 | 1 社 | 3 社 |
| ~3 億円 | 1 社 | 2 社 | 1 社 | 0 社 | 4 社 |
| 合計 | 3 社 | 4 社 | 4 社 | 4 社 | 15 社 |

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、利用客数、仕入単価、在庫数、採算（経常利益）、従業員、外部人材、資金繰り及び景況感を聴取し、DI 値を業種別・売上規模別に比較。
- ② 設備投資状況の調査。
- ③ 現在認識している問題点・経営課題について業種別・売上規模別を調査。

DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

I. DI分析

表1：2024年10月～12月のDI値（業種別）

| | 合計 | 製造業 | 建設業 | 小売・卸売業 | サービス業 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高 | -26.7% | 0.0% | -50.0% | -75.0% | 25.0% |
| 販売単価 | -13.3% | 33.3% | -50.0% | 0.0% | -25.0% |
| 利用客数 | -26.7% | -33.3% | -50.0% | -75.0% | 50.0% |
| 仕入単価 | -60.0% | -33.3% | -50.0% | -75.0% | -75.0% |
| 在庫数 | 6.7% | 0.0% | 25.0% | 25.0% | -25.0% |
| 経常利益 | -33.3% | -33.3% | -50.0% | -50.0% | 0.0% |
| 従業員 | 0.0% | 0.0% | 25.0% | -25.0% | 0.0% |
| 外部人材 | -6.7% | 0.0% | -25.0% | 0.0% | 0.0% |
| 資金繰り | -26.7% | 0.0% | -25.0% | -50.0% | -25.0% |
| 景況感 | -33.3% | -33.3% | -50.0% | -50.0% | 0.0% |

表2：2024年10月～12月のDI値（売上規模別）

| | 合計 | ～1千万円 | ～3千万円 | ～1億円 | ～3億円 |
|------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 売上高 | -26.7% | -66.7% | -20.0% | 33.3% | -50.0% |
| 販売単価 | -13.3% | -33.3% | -40.0% | 0.0% | 25.0% |
| 利用客数 | -26.7% | -33.3% | -20.0% | 33.3% | -75.0% |
| 仕入単価 | -60.0% | -100.0% | -60.0% | -66.7% | -25.0% |
| 在庫数 | 6.7% | 0.0% | 0.0% | -33.3% | 50.0% |
| 経常利益 | -33.3% | -66.7% | -40.0% | 0.0% | -25.0% |
| 従業員 | 0.0% | 0.0% | -20.0% | 33.3% | 0.0% |
| 外部人材 | -6.7% | 0.0% | -20.0% | 0.0% | 0.0% |
| 資金繰り | -26.7% | -66.7% | -40.0% | 0.0% | 0.0% |
| 景況感 | -33.3% | -100.0% | -20.0% | 0.0% | -25.0% |

- 前回（2024年7月～9月）調査に比べ、全体的に業況は改善傾向にあると評価できる。
- 特に、業種問わず、利用客数の改善により売上の改善につながっている様子が窺える。
- 一方で、業績の回復に伴い人手不足になりつつある様子も窺える。
- 売上規模別では、1千万円以下の小規模企業における売上高の悪化が懸念される。

II. 設備投資の状況

- 前回同様、2024年10月～12月にかけて設備投資した企業は、なかった。
- 未だ業況が回復せず、設備投資の機運が高まってないと推測できる。

III. 課題意識調査

図1 2024年10月～12月の課題意識（業種別）

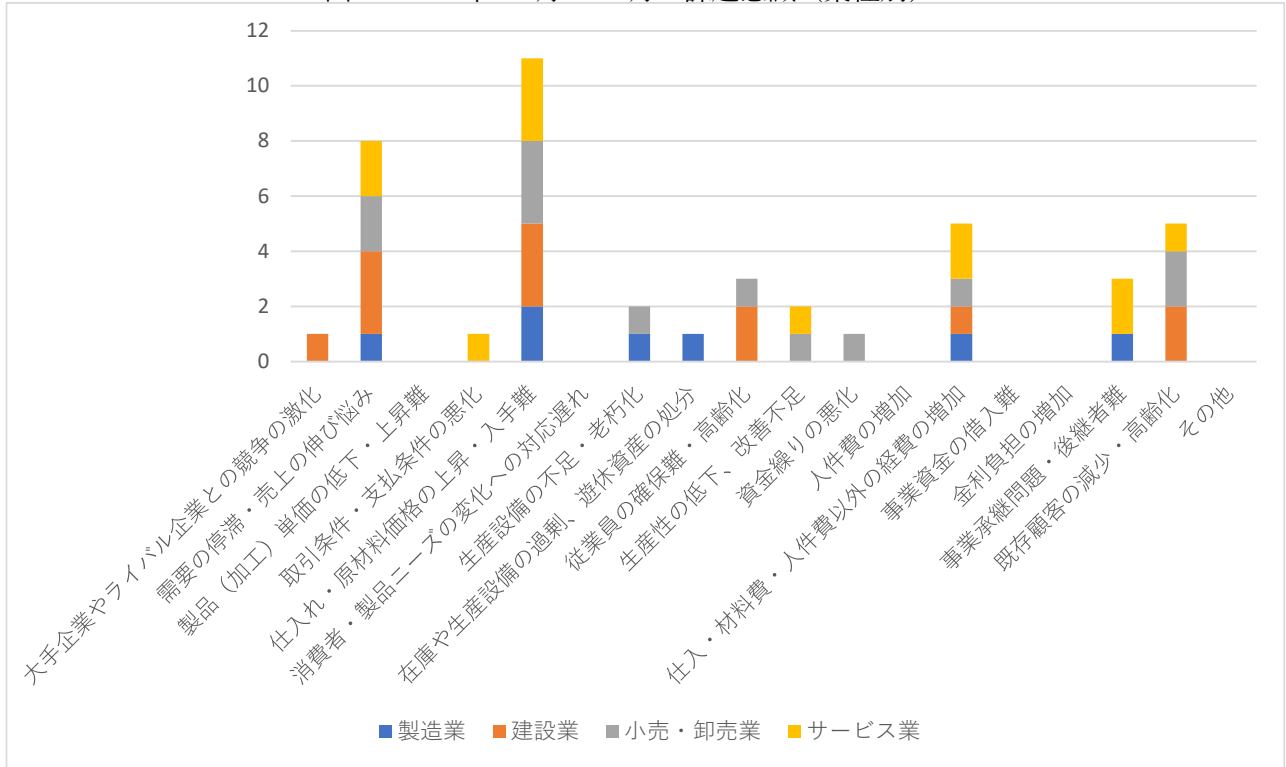
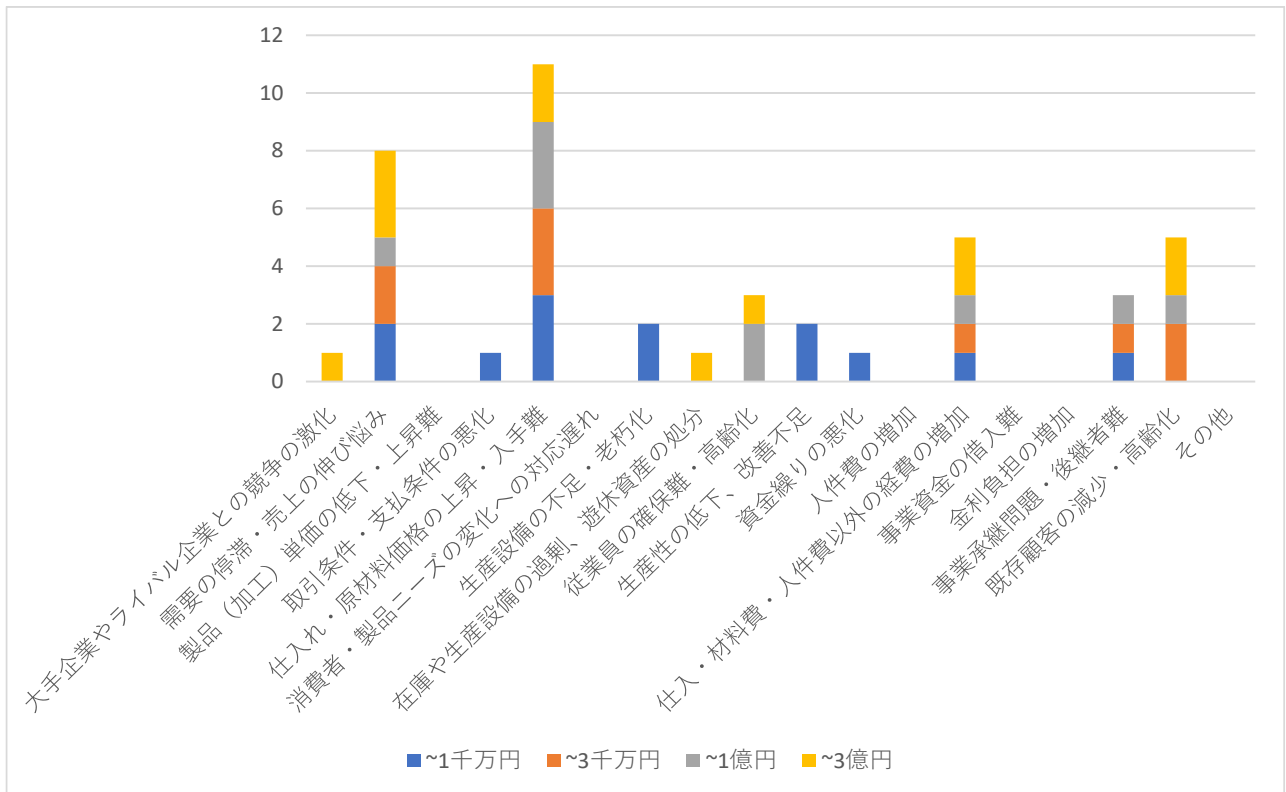


図2 2024年10月～12月の課題意識（売上規模別）



- 仕入れ・原材料価格の上昇・入手難及び需要の停滞・売上の伸び悩みに顕著に増えている。ただし、DI 値の調査では、一様に仕入単価も売上高も改善傾向にあり、矛盾している。これは仕入れ・原材料価格の上昇・入手難や需要の停滞・売上の伸び悩みが悪化したというよりは、他の問題が改善されてきており、意識する問題がその2つに集約されてきていると解釈できる。
- 特に、人件費の増加については、落ち着きを取り戻しつつある様子が窺える。

以上